子どもたちがＡＩ時代を生き抜くために！

新学期を目前に控え、子どものこれからの教育について頭を悩ませる親も多いでしょう。子どもたちが直面する、今後 10 年の最も大きな変化を「スマホの普及に伴い、ネットで 50 億人の脳がつながること」と教育改革実践家の藤原和博さんは話します。「AI を搭載したロボットもつながってきます。すなわち、早く計算して正確に答えを出す力は重要ではなくなる。誰の意見や技術を使うか取捨選択し、それを編集する力が必要となってくるのです」。藤原さんは、それぞれを「ジグソーパズル型学力」「レゴ型学力」と言い換えます。ジグソーパズルは、何千ピースあろうとも正解は一つですね。一方レゴブロックに正解はなく、自由に世界観を作り出せます。

「基礎的な知識は必要。とくに小学生時代はとても大事で学校の授業もこちらがメイン。理想は、小学校では 9 対 1 の割合でジグソーパズル型学力を伸ばし、中学校では 7 対 3、高校では 5 対 5 にする」。では小学生の親は、何をすればいいのか。「家庭では知識のつめこみに偏り過ぎないようにします。レゴ型学力の土台は家庭でも作れます。その方法は、10 歳くらいまでに徹底して体を使った遊びをさせることです」。木登り、缶蹴り、積み木遊びなど、リアルな体験を伴う遊びから、物や人との距離をつかみバランスを取る力が育つそうです。「これが物や情報を組み合わせる力になる。10 歳を過ぎると、その力は向上しにくいと言われます。キャンプや農村留学など、あえて不自由な場所に身を置かせることをお勧めします。不自由な状況にいると、自ら情報を編集し、課題を解決する力がつきます。多様な価値観に触れることでレゴのピースが増えます」。

最後に、これから予想される社会の変化に伴い求められる力は ①「思考力」②「プレゼン力」③「コミュニケーション力」④「発想力」⑤「ライフデザイン力」の 5 つであると考えます。

「AERA with Kids 春号」（取材・文／松田慶子）

《 常南のヒーロー 》　　校長先生は「常南のヒーロー」　3 年間で 1,800 枚突破！

担任の先生がいろいろな配付物を配っているとき、みんなが手伝っていました。ありがとう！そして、校長先生、3 年間（4 年間）本当にありがとうございました！　（5 年：松浦由依）

僕のコップの水が床にこぼれてしまったとき、北村 漣　（6 年）君、浅井悠利（6 年）さん、廣瀬杏梨（6 年）さんが一緒に拭いてくれました。ありがとう！　（6 年： 森 凰峨）

小宮姫華（6 年）さんが掲示してあった習字の作品を外して、一人一人に配ってくれました。ありがとう！　（6 年：野村史佳）

「常南のヒーロー」ボックスを作ってくださり、ありがとうございました。一人一人のヒーローを見つける力にいつも感動していました。素敵なものを作ってくださった校長先生は「常南のヒーロー」です。　（by　青山早苗先生）

※　「常南のヒーロー」‥ 本年度「980 枚」、そして設置以来 3 年間で「1,820 枚」を記録しました。